



第94号

2011 / 12

第9回全国バスマップサミット in 弘前 開催

全国のバスマップ（公共交通マップ）を作成した団体などが集まり、知識の交換や交通についての議論を行なう『全国バスマップサミット』が、11月12～13日の2日間にわたり弘前市にて行なわれた。

最初に行なわれたオープニングセッションではまず、RACDAより『アクセスマップ』を紹介した。最初に作成したものは2010年の瀬戸内国際芸術祭のときで、各島間の船便や、駅と港をつなぐバス便を一覧で示した時刻表と地図で構成している。これに続き法界院・間屋町と各種マップを作成していることを紹介した。

また大鰐線トレインキャストさんからは『ふらりおおわにさんぽ』やトレインキャストの仕事などを紹介していただいた。乗客減少が続いている弘南鉄道大鰐（おおわに）線において、初めて来る人に大鰐線沿線の魅力を見つけてもらい、日常乗られている人には



沿線の再発見をしてもらおうと『ふらりおおわにさんぽ』を作成されたという。電車内のつり革も地域の特産品である“りんご”に見たてており、これもトレインキャストさんのアイデアだとのこと。

引き続き行なわれたポスターセッションでは、参加された各地団体の活動を紹介されており、情報交換などが盛んに行なわれていた。新しい取り組みも見られ、こちらにも刺激を受けることが出来た。

特別セッションでは東日本大震災後の交通の状況や、バスだから出来た取り組みなどを交通ジャーナリストの鈴木文彦さんより紹介していただいた。新幹線は約1ヶ月間に渡り運休をしていたが、この間に活躍をしたのが特例おもに東北地方と首都圏を結んでいたが、新幹線や空港の復旧にあわせ運行形態も変化していった。

このほか沿岸地域の状況も報告された。津波に流され大破したり建物の上へ上がってしまった車両などあったが、日頃からの危機管理が興をそうして車両を即座に高台へ移動させるなど、今度の教訓となる事例も報告された。

夕方からは会場を大鰐町の「鰐COME」へ移しての開催となったために中央弘前から大鰐線で移動することに。夕方ということもあって会社や学校帰りの利用が見られた。「鰐COME」では夜学・懇親会が開かれ、各地団体との更なる交流を深めた。

このほか2日目には市内巡検もあり、第9回バスマップサミットを締めくくることがとなった。なお次回は札幌市での開催が報告された。

今回のバスマップサミットは弘前大学のサークル“H・O・T Managers”

（ホットマネージャーズ）が主催として運営されました。お礼申し上げます。（松田和也）



## 青森・弘前バスマップサミット・巡検

今回はバスマップサミットに参加をされた「ぐるっと高松」公共交通を育てる会の井上さんより寄稿していただきました。



実際に走っている路線バスに乗って、弘前の公共交通事情やまちの様子を観察するフィールドワークに参加してきました。

何もわからないまま、会場の弘前観光館をスタート。会館前を通る、土手町循環という循環路線に乗車しました。ショッピングセンター、弘前駅、飲み屋街、市役所を10分毎に運行。所要時間20分の路線。

バスに乗車すると、高松では「お待たせしました！」と乗務員さんから放送されるのが一般的だと思っていましたが、弘前へ行くと「こんにちは！」とあいさつ。バスの乗務員さんとの距離を近く感じ好印象でした。

まず、弘前バスターミナルを目指しました。走行中のバス車内からバス停留所を見ていると、「〇〇眼科」、「〇〇メガネ」、「〇〇総合病院」などを示した看板が目に入るが、実はバス停留所。三角柱の形状で、道路側には広告看板、歩道側には時刻表を明記した面がある。ところが、バス停名の表記が見えない。15分かけて弘前バスターミナルに到着。イトーヨーカドーが核店舗となる商業ビルの一階に、2面对向式の鉄道ホームのような形状のバスターミナル。

各方面への乗り場のバス停ポールを見に行くと、行き先表示と発車時刻は示してあったが、肝心の路線図(経路表)と運賃が示されていない。これでは、バスの利用に不馴れだと利用しにくいなという印象でした。



バス自体は、前ドア仕様の車輈を使用。貸切タイプの車輈に行燈(行き先表示)を装着したものや宴会場送迎に使えるようなマイクロバスも、路線バスとして立派に使われている。ただ、各車両の特性なのか、行燈が見えづらいので近くに寄っても、何を書いているのか判りにくかったです。

弘前バスターミナルから、城東環状 100 円バス(和徳回り)に乗車、さくら野百貨店へ向かいました。

ショッピング系の路線で、主たる乗車は弘前バスターミナルとさくら野百貨店。20分毎の運行ですが、往復とも席満乗車でした。

弘前は、城下町ながら平坦ではない中途半端なアップダウンが多い町なので、バス利用に恵まれる環境にあると思いますが、新規利用者の獲得に至っておらず、若年層の利用が伸び悩んでいる印象でした。

後の意見交換会では、新規のバス利用者を増やしていくという環境ではないことについて、発表をしました。